

凡例

- 一、底本には、川口久雄氏が岩波日本古典文学大系本に採られている、「前田家尊経閣所蔵本」を用いた。ただし読解上、底本と異なる字句を用いた箇所がある。（その都度 その根拠を示す注を付けた）
- 一、原詩のみ正字で載せ、語釈・通釈等は通行の新体字を用いた。
- 一、訓読文の仮名遣いは、歴史的仮名遣いに統一し、送り仮名を必要に応じて補い、出来るだけ平易な読みとなるよう心掛けた。
- 一、旧字・異体字は原則として新体字に直したが、一部底本のままの字を使用したところがある。
- 一、現代語訳は出来る限り、本文に忠実な訳となるよう心掛けた。
- 一、詩句の内容や背景を分かりやすくするために、意訳をしたり、詩句の訳の中に説明を加えたところがある。
- 一、注釈に当たり、菅原道真の『菅家後集』の作品番号は、川口久雄校注、岩波日本古典文学大系本のそれになる、参考として引用した嶋田忠臣の『田氏家集』の作品番号は、内田順子編『田氏家集索引』に拠り、紀長谷雄の漢詩文の作品番号は、三木雅博編『紀長谷雄漢詩文集並びに漢字索引』に拠った。また白居易の『白氏文集』の作品番号は花房英樹著『白氏文集の批判的研究』のそれにならった。
- 一、校異に用いた諸本は以下の通りである。

写本

尊経閣所蔵本（一）

一冊《底本》

尊経閣所蔵本（二）

一冊